

# 退職と老齡の社会的な現象

M. Giraro (フランス)

本稿には、退職者の立場と退職時の資産が取上げられている。

本稿の目的は、退職者の社会的な立場と退職年齢時に取得していたか、もしくは、取得できる資産の関係を求めることである。

過去においては、老齡は知恵、円熟および経験を伴うものと考えられた。現代の社会は老齡を罷免とみなし、また、退職を従来の環境からの引退、直ちに休息する時期および老境への過程の出発点とみなしている。

「取得できた資産」 — この言葉は蓄積された資産と退職後に取得できる資産を含んでいる — の限界に与えられる判断基準によれば、5種類の可能な状態があり得る。

- (1) 「社会から引退する」退職 — これは資産もしくは潜在的な資産の欠如を特色としている。このような者は隔離している。つまり、かれは当人の社会的もしくは文化的なニーズを満し得ることなく、その後を生きなければならぬ。
- (2) 「第3の年齢」の退職 — これはある資産とその潜在性をもつ例である。この場合の意味はある新しい創造的な活動に手をつけたり、あるいは、従

来もっていた興味を発展させることである。

- (3) 「余暇」の退職 — これは退職者がかなりの資産をもっているが、潜在的な資産の少ない例である。そのような年金受給者は消費者であり、かつ、かれの使うことになっている金のお蔭で当人のレジャーをより一層楽しむ。
- (4) 「独断的な」退職 — これは社会によって与えられた役割の拒否を特色としている。このような人びとは組合、クラブおよび他の組織に加入する。
- (5) 「参加する」退職 — これは大きな資産をもっており、潜在的な可能性をもっていないのを特色としている。このような人びとは社会に完全に融け込んでおり、大きな消費者である。

これらの各種のカテゴリーは、活動的なグループと非活動的なグループの区分について、今日の社会のもっている重要性を示している。

老齡者に対する色いろな社会政策は、活動的な生活の間に蓄積された資産の量と性質に応ずるべきである。活動的な生活の終りが与えるショックを柔らげるために、「活動的な生活、余暇の生活」の概念を修正することも必要である。

Service Social des Caisses d'Assurance maladie, No. 1,  
1974, pp. 37-41 ; No. 58, 74/75.